

友の会だより

No.61

2020.07

茨城県陶芸美術館 友の会

展覧会
案内

青か、白か、—青磁×白磁×青白磁

会期／令和2年7月18日（土）～10月18日（日）

主催／茨城県陶芸美術館



▲岡部嶺男 粉青瓷大砵
1969年 当館蔵



▲加藤委 サンカクノココロ 2013
2013年 当館蔵



▲松村淳 (un)dynamic equilibrium
2019年 個人蔵
画像提供：現代美術 艸居



▲竹内絃三 Modern Remains Avalanche
2014年 現代美術 艸居蔵
画像提供：現代美術

青磁釉をまとった「青磁」、白い磁土に透明釉をかけた「白磁」、白磁を透明な青い釉薬で彩った「青白磁」は、いずれも中国に起源をもち、長きにわたり人々を魅了し続けてきました。現代の日本でも多くの陶芸家が青磁、白磁、青白磁を手がけており、個性の異なるこの三つは、それぞれユニークな展開を見せています。釉薬と土が響きあって生み出される青磁の青か、光と影が多彩な表情を作り出す白磁の白か、それとも釉薬の溜まりがグラデーションとなって現れる青白磁の青か、作家たちは豊かに広がる青と白の世界の中で、どんな表現を編み出してきたのでしょうか。

本展覧会では、近代の巨匠から現代の気鋭の作家まで約120点の作品を通じて、各々の素材や技法の特性を活かし、独自の道を切り拓いてきた近現代日本の青磁と白磁、青白磁の足どりをたどり、その魅力を紹介します。

● 展覧会関連催事のご案内

* 詳細は、チラシや当館ウェブサイト等をご覧ください。

● 作家インタビューweb版 #青か、白か、

出品作家たちが青磁・白磁・青白磁にかける思いや制作秘話を語った動画を、会期中、随時YouTubeにて公開します。また、当館SNS（Instagram、Facebook、Twitter）でも動画や展覧会関連情報を公開します。

語り手：松村淳（白磁）、加藤委（青白磁）、志賀暁吉（青磁）、和田的（白磁・青白磁）

※ 順番は前後する可能性があります。

公開日：7月から8月にかけて順次公開

URL：YouTube <https://www.youtube.com/channel/UCNyE1ZA08pz0xglCFkERpnQ>

Instagram <https://www.instagram.com/toubikasama/>

Facebook <https://www.facebook.com/茨城県陶芸美術館-853234924733337/>

Twitter https://twitter.com/ceramic_art_mus

● ギャラリートーク（予約不要）

担当学芸員が展覧会をご案内いたします。

日時：7月25日（土）、8月22日（土）、9月5日（土） 各日とも13：30から

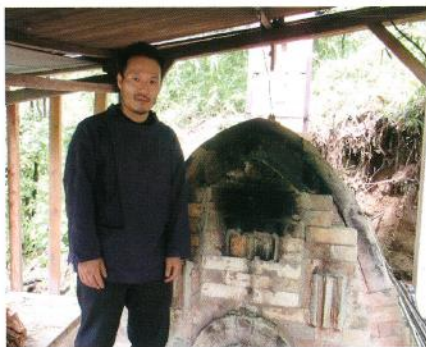
会場：当館地下1階 企画展示室 参加費：無料、観覧料にてご聴講いただけます。

茨城県陶芸美術館ホームページ <http://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/>

環境との調和を模索する作陶

加我光司さんを訪ねて（5月23日）

身の回りの自然を生かして焼締め作品を薪窯で焼き上げている加我さんを、笠間市内の工房にお尋ねしました。



（自作の窯の前で）

ご出身は

北海道の小樽市に生まれました。

陶芸の道に進まれた経緯についてお聞かせください。

小樽に北海道の作家さんの作品を展示しているお店があり、高校生の時にその店で作品を見る機会がありました。成形や彩色などの要素がとても面白そうで陶芸に興味を持ちました。その時見た作品の作家さんを訪問し話の中で笠間を知りました。「勉強するなら笠間がいいよ」と言われ、何人かの笠間の作家の方に連絡しました。寺本守先生から「高校を卒業したら来なさい」との返事をいただき先生から指導を受けることになり笠間で

の生活がスタートしました。先生の手伝いが終わった後は自分の練習の時間でした。ひたすら轆轤に向かい、絵付けや釉薬なども経験しました。轆轤も土もいじった経験もない自分にとっては驚きと新鮮さで楽しい時間でした。先生から、陶芸の基本を学ばせていただきました。

焼締めをはじめたきっかけをお聞かせください。

2008年、独立に際して探した物件に、桜川市で薪窯を途中まで作ってあったものがあり、それを引き継ぐかたちで独立しました。窯焚きに3・4日かかりましたが「大変だったけれど、面白かった」というのが感想でした。私にとっては薪窯で焼締めの作品を作ることは自然の流れでした。窯の形や大きさ薪によってできる作品が変化します。その後は窯の形や窯の焚き方など試行錯誤の連続でした。続けていくうちに「このスタイルを続けていけるのか」と思うようになり、長く続けて行くには環境に合ったもの、環境を生かすことが大事であると思うようになりました。2013年に現在地に築窯しましたが、何度か窯を作り替えて現在の窯に落ち着きました。薪も周りにある篠竹や倒木なども利用しています。いろいろなことがテスト状態で、今も感覚を大事にしながら作陶しています。

作品や今後の方向性についてお聞かせください。

焼締めはもちろんですが、灰釉を使ったものも作っています。環境を生かしたいと思い、窯で出た灰を灰釉に利用しています。窯も現在の形・大きさに落ち着いたので、地元にある土や薪（工房は山の斜面にあり草木に囲まれている）を利用しながら作陶を続けていきたいと考えています。また、造形が好きなので自分なりの形にこだわりのあります。努力の仕方、楽しみ方が作品に出てきます。「うつわ」を主に作っていますが、「オブジェ」にも挑戦したいと思っています。焼くときの感覚を忘れないためにも小さい窯なので、コンスタントに焼いています。時節ごとに変化する自然現象を、より身近に感じられる作品を作り続けたいと思っています。

プロフィール

- 1977 北海道生まれ
- 1996 寺本守氏に師事
- 2008 桜川市で穴登り窯を築窯 独立
- 2012 ギャラリー舞台・ギャラリー曜燿で個展
- 2013 笠間市へ薪窯移築
- 2015 ミラノ国際博覧会出品



焼き締め花器



灰釉焼酎杯
焼き締めマグカップ



灰釉陰陽紋皿

対談を終えて

集落から離れた山あい、レンガの煙突が立つ薪窯。自分の作品に合わせて何度も作り替えたそのこだわりの、焼き物に対する強い思いを感じました。この窯でこれからどのような作品が展開されていくのか、その広がりが楽しみです。

友の会からの お知らせ

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が生活に大きな影響を及ぼしています。緊急事態宣言は解除され段階的に日常を取り戻す努力がなされ感染リスクは下がったものの、一人一人が責任ある行動が求められています。

友の会の活動につきましても、こうした状況に鑑み、令和2年度の理事会・代議員会は書面での決裁とさせていただきます。また、今年度の事業につきましても、例年実施している国内（外）研修視察、呈茶会は実施を見送ることといたしました。また、他の事業につきましても実施にあたっては十分に状況を注視しながら進めていきます。何とぞご理解ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

なお、美術館では「開館20周年記念事業 笠間陶芸大賞展」が来年度に延期されるなどの変更はありますが、前後の企画展の開催期間を延ばすなどの対応をしながら開館をしております。会員の皆様におかれましては特典を生かし、ぜひご観覧ください。

令和元年度事業報告

●会報「友の会だより」の発行 №58, 59, 60号発行

つくる

●ヨーロッパ磁器絵付け講座

期 日：7月14日（日）7月26日（金）
講 師：マリア・テレサ・ルーディ 横田 先生
参 加 者：15人

●笠間工芸の丘各種体験：割引参加（通年）

きく

●企画展関連各種講演会参加者への記念品贈呈

4月27日（土）「第25回 日本陶芸展」
アーティストトーク
2月22日（土）「ガレの陶芸」
講演会 「ガレの陶器制作をめぐって」
講 師 山根 郁信 氏（美術史家）

みる

●国内研修視察

期 日：12月1日（日）～3日（火）2泊3日
視 察 先：鹿児島県「薩摩焼の発祥と伝統の地を訪ねる」
参 加 者：23人（会員21 事務局1、添乗員1）

●日帰り研修

「鎌倉文学館と吉兆庵美術館を巡る」
※新型コロナウイルス感染症感染防止のため中止

呈茶会

●企画関連茶会

期 日：11月13日（水）茨城県民の日
席 主：原田 勝子（表千家）
参 加 者：74人（呈茶券購入者）

令和元年度決算

収 入 (円)		支 出 (円)	
会費収入	685,000	旅費	63,200
事業収入	37,000	消耗品	6,946
雑収入	6	印刷製本費	18,680
繰越金	57,800	食料費	33,670
合 計	779,806	通信運搬費	110,523
		手数料	19,730
		観覧料	25,860
		会報発行費	263,440
		講座開設費	50,000
		研修費	15,600
		茶会開催費	60,714
		図録購入費	43,539
		合 計	711,902

令和2年度事業計画

●会報「友の会だより」の発行 第61, 62, 63号発行

つくる

●ヨーロッパ磁器絵付け講座

期 日：令和3年2月
講 師：マリア・テレサ・ルーディ 横田 先生
場 所：陶芸美術館研修室
募集人数：16人

●笠間工芸の丘の各種体験への会員割引参加（通年）

きく

●各企画展・特別展開催中に実施する講演会に参加した会員への記念グッズの贈呈

みる

●国内（外）研修視察

※新型コロナウイルス感染症感染防止のため実施しない。

●日帰り研修

期 日：11月
視 察 先：鎌倉方面
参 加 費：10,000円程度
募集人数：30人

呈茶会

●企画展関連茶会

新型コロナウイルス感染症感染防止のため実施しない。

令和2年度予算

収 入 (円)		支 出 (円)	
会費収入	767,000	旅費	70,000
事業収入	0	消耗品	10,000
雑収入	10	印刷製本費	60,000
繰越金	67,904	食料費	30,000
合 計	834,914	通信運搬費	120,000
		使用料	40,000
		手数料	30,000
		観覧料	40,000
		会報発行費	270,000
		講座開設費	60,000
		講演会等費	5,000
		研修費	20,000
		図録購入費	70,000
		予備費	9,914
		合 計	834,914



良い品をそろえてご来店をお待ちしています

友の会特約店のご紹介

- アトリエ・フラスカ 0296-72-9322
- 笠間工芸の丘 0296-70-1313
- 7月1日(水)～7月26日(日)
新進作家陶芸展
若手陶芸作家8名
- 7月29日(水)～8月10日(日)
うつわのわ、輪、ワ！
伊藤珠子 門脇美香江 菅原良子
中林由香梨 松下知子
- 8月12日(水)～8月23日(日)
迫二郎・杉山洋ニガラス二人展
- 8月26日(水)～9月6日(日)
Xの情景
小山照彦 鈴木一彌 矢貫 誠
高野墳之 小野三枝子 小島英一
- 9月9日(水)～9月22日(火)
海老澤礼子・小島佳代二人展
- 9月16日(水)～9月27日(日) 陶人形展Ⅵ 井上 卓
- 笠間みんげい 0296-72-9280
- かつら陶芸 0296-72-6688
- ギャラリー桜 0296-72-0803
- ギャラリー爽風SOHO 0296-72-9121
- ギャラリー舞台 0296-73-0700
- 7月7日(火)～8月2日(日) 坂本新マンスリー展示
- 8月8日(土)～8月23日(日) 高橋協子展
- 9月1日(火)～10月4日(日) 坪内孝典マンスリー展示
- 笠間焼窯元共販センター 0296-72-5665
- きらら館 0296-72-3109
- 6月30日(火)～7月12日(日) 吉田文・樋口早苗 二人展

- 7月14日(火)～7月26日(日)
野村晃子・内藤加奈子 二人展
- 7月29日(水)～8月16日(日) きらら館 第16回 ねこ展
- 9月1日(火)～9月13日(日) 栗原節夫 作陶展
- 9月15日(火)～9月27日(日) よこみち展
- 向山窯 0296-72-0194
- 丹野陶房 0296-72-4028
- 陶芸館 0296-72-6650
- ギャラリー陶正 0296-72-4007
- 東風舎 0296-72-5205
- 無限堂 0296-72-1695
- やまさき陶苑 0296-72-6865
- 涼 0296-72-0712
- ミュージアムショップ(館内) 0296-72-7105
- 7月18日(土)～10月18日(日)
「青か、白か、一青磁×白磁×青白磁」関連商品販売
- レストラン「風の丘」(館内) 0296-72-0197

各店舗で買物をされる際、会員証を提示していただくと、陶器が10%割引となります。(一部除外品があります。) 笠間工芸の丘は体験のみ対象です。レストラン「風の丘」は飲み物サービスとなります。

会 員 募 集

茨城県陶芸美術館友の会では、会員を随時募集しています。
年会費3,000円(夫婦会員は2人で5,000円)

- 特典1 常設展が、何度でも無料観覧できます。
- 特典2 企画展が年2回まで無料で観覧できます。
- 特典3 会報の無料配付(年3回)を受けられます。
- 特典3 特約店において、陶磁器等の割引が受けられます。
- 特典4 友の会主催の各種事業に参加できます。

お問合せは茨城県陶芸美術館友の会事務局までお願いします。
茨城県陶芸美術館友の会事務局(茨城県陶芸美術館内)
電話 0296-70-0011 FAX 0296-70-0012

編集委員会 からの お知らせ

編集委員募集のご案内

年3回発刊「友の会だより」を
仲間と一緒に作ってみませんか。

《会報は、編集委員と事務局員によって次により作られます》

- 発刊内容の検討・協議(対談作家の決定)……年度当初
 - 対談作家訪問(全員)……………年3回(各回2時間程度)
 - 原稿取りまとめ(内容・文面検討)……………メール等でやり取り
- ※友の会より実費相当の交通費が支払われます。

編 集 後 記

美術館ではソーシャルディスタンスに配慮しながら7月18日(土)より企画展「青か、白か、一青磁×白磁×青白磁」が開催されます。皆様のご来館をお待ちしています。

友の会だより No.61

発行：令和2年7月1日
編集・発行：茨城県陶芸美術館友の会
〒309-1611 笠間市笠間2345
電話 0296-70-0011 FAX 0296-70-0012
編集委員：小葉 和子 鈴木 充 木川りこ